



## *Madame Chrysanthème*

Loti, P.

お菊さん

ロチ, P.

00006541



[Added title page]  
[副標題紙][傘をさしている  
クリザンテム[お菊]]



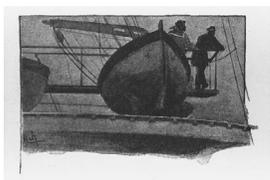
[百合の花]



[花瓶]



[梅の花]



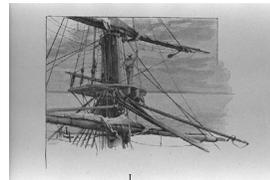
[艦橋の上にいるイヴ[水  
兵の名]と「私」]



[帆を降ろした帆船]



[蓮と蝶]



[帆柱に立っている水兵]



[帆を降ろした帆船]



[長崎の入江のジャンク[和船]]



[船に来た日本の物売女と小さ  
な厚紙の車を廻す白い小鼠]



[船に来て甲板に荷を広げた日本  
の物売りとそれを買う水兵たち]



[長崎の町の灯]



Il pleuvait par torrents le lendemain; une de

[大雨の入江]



[大雨の中でサイパン〔舳舟〕を操る二人の子ども]



[傘をさしかける人力車夫]



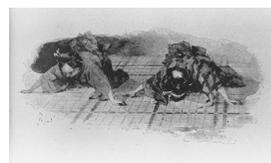
[雨の中の町の光景]



[疾走する人力車と絵をかいた紙の傘をさして裾を端折っている婦人]



[鳥居]



[挨拶する二人の女中]



[襖の隙間から覗いている「私」]



[宴会の様子]



[踊り子]



[ムッシュ・カングルウ〔勘五郎〕]



[女中たちの見送り]



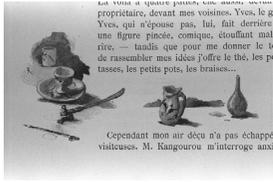
[向かい側のいえ]



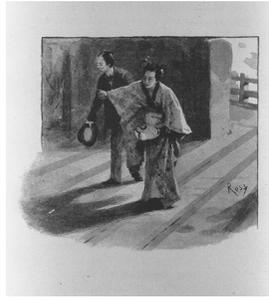
[芸者]



[梅の花]



[茶碗, 煙草, 水差し, 花瓶など]



[マドモアゼル・チャスマン[素馨]とムッシュ・カングルウ[勘五郎]]



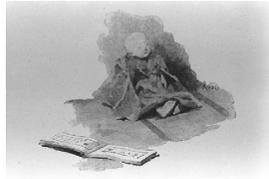
[マドモアゼル・チャスマン[素馨]]



[提灯]



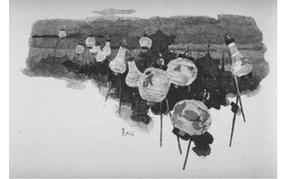
[帰りの挨拶]



[人形]



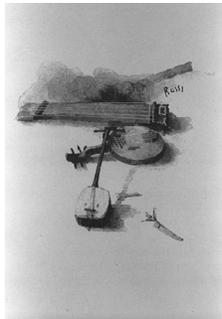
[登記役場での署名]



[提灯の列]



[三味線を弾くクリザンテエム  
[お菊]]



[琴, 月琴, 三味線]



[[私]の家の内部]



[縁側から見た長崎の光景]



[クリザンテエム[お菊]]



[人形]



[仏像]



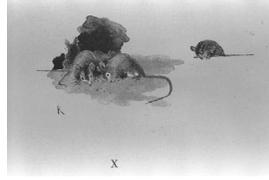
[ムッシュ・カングルウ[勘五郎]]



IX  
[三味線を弾くクリザンテム  
[お菊], 蟬]



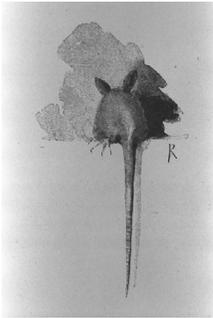
[提灯を持って町へ下りてゆく]



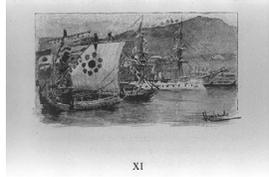
X  
[鼠]



[蚊帳の中に寝ているクリザン  
テム[お菊]]



[鼠]



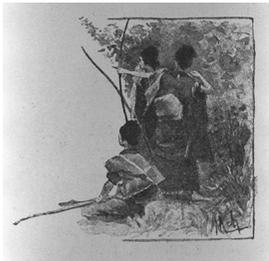
XI  
[フランスの国祭日7月14日に  
長崎の碇泊場での満艦飾]



[オズヴァ[お諏訪, 諏訪神社]の  
石段]



[人力車に乗って長崎の町を行  
く「私」たち]



[弓を引いているムスメたち, す  
なわち若い少女または非常に若  
い女たち]



[弓を引くクリザンテム[お菊]]



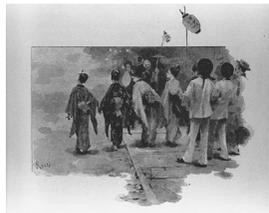
[イヴを取り巻いた娼婦たち]



XII  
[[「私」と同じように結婚している  
同じ船の4人の士官の妻たち]



[人の出盛っている長い灯のつ  
いた長崎の町筋]



[手をつないで歩く5人の妻と  
後ろからついていく士官たち]



[長崎の陶器店]



[贈り物をしあうムスメたち[妻  
たち]]



[ムスメ[妻]の手を引いて山の  
中腹にある家へと登っていく]



[背の高い友人と「私」たちの妻]



[「私」とイヴとクリザンテム  
[お菊]]



[信心深いムッシュ・スウクル  
[砂糖[佐藤]さん]とマダム・プ  
リュヌ[お梅さん]. すなわち  
「私」の家主と彼の妻]



[家主の娘オユキ]



[燈明に集まる虫たち]



[虫を戸外へ追い出すための特  
別の団扇]



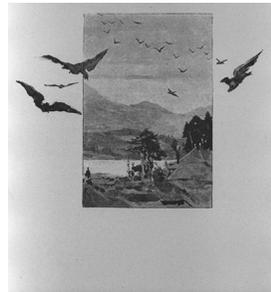
[長崎での「私」の家]



[花瓶にかけた花]



[蟬]



[大鷹]



[イヴに箸で食べさせるクリザ  
ンテム[お菊]とオユキ]



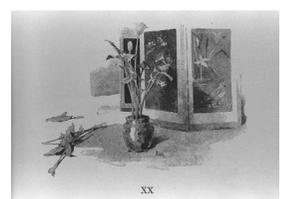
[日本のビジョン・ヴォル[鳩が  
飛んでいる]という遊び]



[「私」の日本人の家族]



[「私」の日本人の家族のうち人力  
車夫をしている二等親の従弟]



[青銅の花瓶に挿された蓮]



〔蜻蛉〕



〔昼寝をしているクリザンテエム  
〔お菊〕と三味線〕



〔ムッシュ・カングルウ〔勘五郎〕〕



〔日本の墓地〕



〔山の墓石〕



〔飯をよそうクリザンテエム〔お菊〕〕



e Prune, le même que l'on sert  
s les hôtelleries.  
dans le courant du jour par  
frôlement ordonnées. De chez  
ces choses se cuisinent, on les  
lataeu de laque rouge, dans  
tasses à couvercle : un hachis  
revette farcie, une algue en

〔クリザンテエム〔お菊〕の食事〕



〔米の入った銅の輪のはまった  
大きな木の桶〔おひつ〕, 茶碗, 箸,  
醤油差し〕



〔ある四辻にたたずんでいる女の  
唄うたい〕



〔葬列〕



〔船渠〔ドック〕に入るラ・トリ  
オンファント〔「私」の乗っている  
船の名〕〕



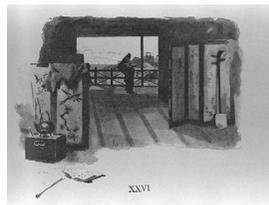
〔村々の娘たちとなじみになった  
水兵たち〕



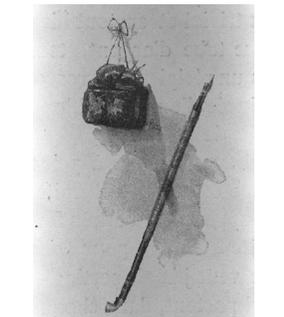
〔町の提灯と塔〕



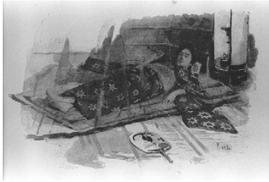
〔蜘蛛〕



〔室内〕



〔煙管と煙管入れ〔煙草入れ〕〕



[蚊帳の中で寝ているクリザンテエム[お菊]]



[煙管を煙草盆に打ち付けるクリザンテエム[お菊]とマダム・プリュス[お梅さん]]



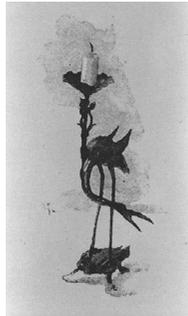
[マダム・プリュス[お梅さん]の祈祷]



[スタンブルの古都のミュエザン[回教寺院の尖塔に立って祈祷の時刻を呼び知らせる人]と三味線]



[押入から着物[?]を出すクリザンテエム[お菊]]



[鶴亀のろうそく立て]



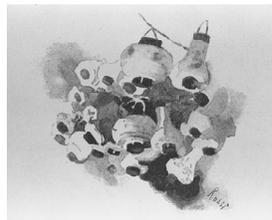
[クリザンテエム[お菊]の女友達の写真-長崎の写真師上野の銘が裏についている手札形の写真]



[クリザンテエム[お菊]が手紙や形見をしまっておく英国製のブリキの函と文通に必要な品物]



[大雨の中を十善寺の家へ登っていく「私」たち]



[町の明かり]



[提灯屋で提灯を買う「私」たち]



[イヴ]



[日本の警官]



[戸籍役場の上官と書記たちの謝る中を冷然と出ていく「私」と背の高い友人]



[船渠[ドック]に入っているラ・トリオンファントに仕事に来る日本の労働者の一隊]



[蝶]



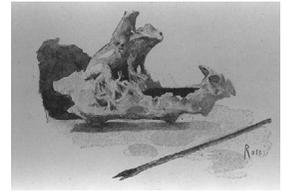
[台風]



[山の中腹にある大きな枝を張った幾百年の老木の森の中の荒れた非常に古い寺]



[鶴を描くムッシュ・スウクル [砂糖[佐藤]さん]]



[ムッシュ・スウクル[砂糖[佐藤]さん]が墨を溶かす皿]



[昔、マダム・プリユヌ[お梅さん]が客をとっている間、ほかの客を引き留めて鶴を描いてみせるムッシュ・スウクル[砂糖[佐藤]さん]]



[ムッシュ・スウクル[砂糖[佐藤]さん]の鶴の絵]



[船渠[ドック]から出るラ・トリオンファント]



[「私」を抱擁するクリザンテム[お菊]と絡みつくオユキ]



[オユキの黒縹子の帯のふくらんだ結び目を直す「私」]



[仮面]



[仏像、神像]



[仁王]



[鳥居と夜のお詣りをする人たち]



[板小屋の中でテーブルの上に横たわった一人の男が手足に着物や仮面を付けて演じている]



[老女[鬼女]の人形と狼の姿の彼女の影]



[七つか八つくらいのお嬢たち]



[[私]の義母の小庭]



[[私]の義母の小庭]



[[私]の義母の小庭. 壁に囲まれた4メートル四方の中に小さな湖, 小山, 小さな岩石がしつらえてあり, 小さな杉が大樹のように谷の上に枝を広げている]



[凧上げをする子ども]



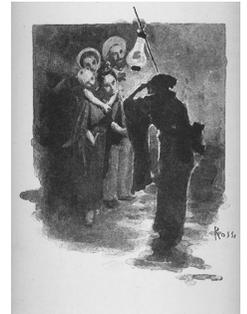
[骨董品店の店先]



[面]



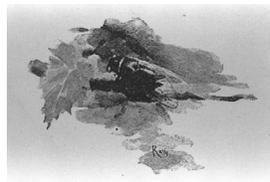
[弟をおぶるクリザンテム[お菊]]



[夜中に起こされたマダム・ブリュヌ[お梅さん]が[私]たちかどうか確認している]



[三味線を弾くクリザンテム[お菊]とオユキ]



[蟬]



[盥で湯浴みをする人たちと来訪者]



[紙鳶[たこ]をあげる小さなムスメ]



[日本の女]



[花]



[鳥居と楼門]



[小さい侍僧]



〔二人の僧侶〕



〔寺に詣でる人たち〕



〔マダム・プリュヌ〔お梅さん〕に付き添われて初めて船に来たクリザンテム〔お菊〕とその妹〕



〔「私」の船室内の仏陀の前の漆の盆に賽銭を入れるマダム・プリュヌ〔お梅さん〕〕



〔町中で見た一人のムスメ〕



〔日傘をさしたクリザンテム〔お菊〕〕



〔水甕の水を飲む猫〕



〔蟬〕



〔骨董品店で〕



〔祈るクリザンテム〔お菊〕〕



〔鼈甲の櫛を日にかざすマダム・プリュヌ〔お梅さん〕〕



〔「私」を看病するクリザンテム〔お菊〕〕



〔庭、灯籠、アサガオ〕



〔写真機〕



〔イヅの背中を拭くクリザンテム〔お菊〕、オユキ、女中〕



〔夜の遠出のために大きな円い提灯を求める〕



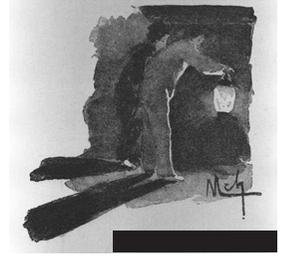
[夜人力車で場末の町を通り抜ける]



[竹]



[木の雨戸を開けて外を眺める  
「私」とクリザンテエム【お菊】]



[戸締まりを見て廻る「私」とクリザンテエム【お菊】]



[家主一家が寝ている]



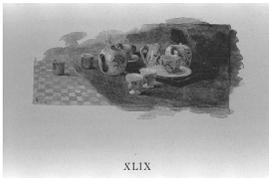
[鼠]



XLVIII  
[難破船の物だった濃霧警報器  
を持ち出してきた眼鏡師]



[下駄]



XLIX  
[ティーポットと茶碗]



[蓮の花]



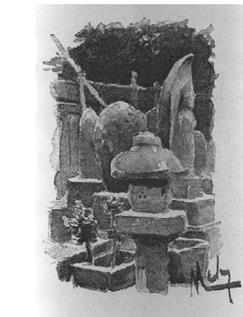
[水やりをするムッシュ・スウ  
クル【砂糖【佐藤】さん】]



[棕櫚竹]



[墓地]



[墓地]



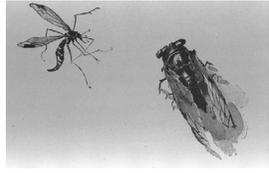
[イヴと「私」]



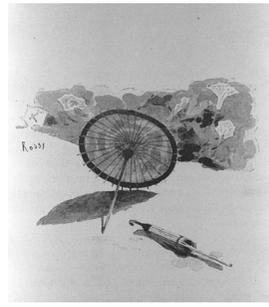
[三味線を弾くクリザンテエム  
【お菊】とオユキ]



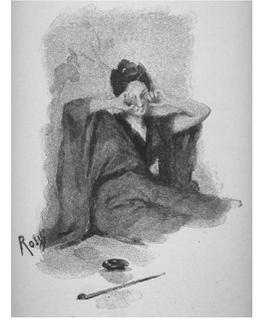
[マツリすなわち祭礼の行列]



[蚊と蟬]



[日傘]



[目を擦るクリザンテムム[お菊]]



[取り乱したマダム・プリユス  
[お梅さん]]



[部屋を写生する「私」]



[[私]の写生を見ているクリザンテムム[お菊], オユキ, マダム・プリユス[お梅さん]]



[人形]



[三味線を弾くムスメ]



[鶴の置物と花瓶]



[人力車で荷物を運ぶ]



[荷物を甲板に上げる水兵たち]



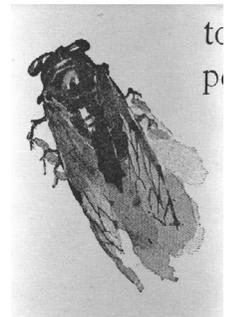
[文身師たち]



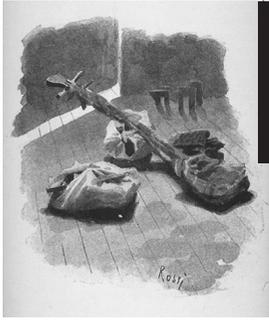
[文身師たち]



[[私]に文身をする文身師たち]



[蟬]



[着物を包んだ風呂敷と三味線]



[銀貨の真贋を調べるクリザンテエム[お菊]]



[挨拶をするクリザンテエム[お菊]]



[日覆いが下がった町並み]



[鶴亀のろうそく立て]



[山高帽や中折帽をかぶった男たち]



[人力車夫の従弟と別れの握手をする「私」]



[[「私」]たちを見送りに来た妻たち]



[湾を出ていく]



[鳥、木]



[蓮の花]



[蓮の花を海に投げ込む]



[三味線を背負う女]



[仏陀の像と「私」]



[侍の人形]



[裏内表紙], [ムッシュ・カン  
グルウ[勘五郎]]